

## 兄島グリーンアノール緊急対策WGの進め方について

### 1. 兄島グリーンアノール緊急対策WGの経緯

#### (1) WGの設置

- 平成 25 年 3 月末、世界自然遺産の核心地域の一つである兄島において昆虫類相等に壊滅的な被害を与え生態系に甚大な影響を及ぼすグリーンアノールの侵入が確認されたことを受け、迅速且つ適切に対策を講じていくための科学委員会の下部検討組織として、科学委員会委員と関係機関により緊急的に設置されたワーキンググループである。(座長は大河内勇科学委員会委員長が兼任)

#### (2) 検討経緯

- これまでに計 4 回のWGが開催された。議事内容と検討結果は次のとおりである。

		内容
第 1 回WG H25. 4/6 開催	議事	<ul style="list-style-type: none"> <li>現状の整理</li> <li>取り得る戦略の整理</li> <li>目標の設定 (何が守れるか、何を守るかの見極め)</li> <li>緊急にとるべき手段の選択</li> </ul>
	委員からの 主な助言、 要望事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>T-Mライン (滝之浦-万作浜) に柵を設置する</li> <li>柵南側の密度を下げるための捕獲手法、探査手法を検討する</li> <li>ハンミョウ柵設置の検討を開始する (今年度中)</li> <li>世界遺産委員会へ現状及び対策内容を報告する</li> </ul>
第 2 回WG H25. 4/27 開催	議事	<ul style="list-style-type: none"> <li>兄島におけるグリーンアノールの最新の分布状況</li> <li>兄島におけるグリーンアノール防除の計画 (案)</li> <li>管理機関の連携と役割分担の方針</li> <li>今後の進め方</li> </ul>
	委員からの 主な助言、 要望事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>「兄島におけるグリーンアノール防除の計画 (案)」の了承</li> <li>内地の事務局や科学委員会との情報・認識の共有を図りつつ、現地連絡会議※にて具体的な事業計画を検討・実施</li> </ul>
第 3 回WG H25. 6/15 開催	議事	<ul style="list-style-type: none"> <li>最新のアノール生息確認情報および対策の進捗状況</li> <li>グリーンアノール防除の計画</li> <li>グリーンアノール分布の評価と防衛ラインの考え方</li> <li>科学委員会の現地開催</li> </ul>
	委員からの 主な助言、 要望事項	<p>&lt;防除の計画について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>短期的には高密度域の囲い込みと集中的捕獲による個体数の迅速な低減、中期的には兄島全域での根絶 (検知されない低密度) とし、長期的には父島からの再侵入を防ぐための対策にも取り組むこと。</li> </ul> <p>&lt;防衛ラインの考え方について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>捕獲柵は、今年度のグリーンアノール拡散期までの設置完了を目指すこと。</li> <li>南北遮断柵は、①保全上重要な中北部エリアへの拡散防止、②新たな分布発見や再侵入リスクの低減、の観点から有効と判断され、今年度中の設置を検討すること。</li> </ul> <p>(別添参照)</p>
第 4 回WG H25. 7/13 開催	議事	<ul style="list-style-type: none"> <li>最新のアノール生息確認情報および対策の進捗状況</li> <li>グリーンアノール防除に関わる計画について</li> <li>今後の兄島グリーンアノール緊急対策WGについて</li> </ul>

※第 2 回WGの結果を受けて設置された「小笠原諸島兄島におけるグリーンアノール防除に関する現地連絡会議」は、5 月 8 日の第 1 回開催から現在 (7 月 4 日) まで計 13 回開催されており、継続中である。

## 2. グリーンアノール防除に関する計画について

・ 兄島でのグリーンアノールの防除に関する計画としては、以下の3段階の計画期間ごとに策定する。

	短期	中期	中～長期～超長期
設定期間	H25 年度中	H25～27 年度 (3 年間)	今後 50 年間程度
検討組織	兄島グリーンアノール緊急対策WG	小笠原諸島生態系保全アクションプラン改定WG	グリーンアノール対策WG(仮称)
アウトプット	小笠原諸島兄島におけるグリーンアノール短期防除計画	アクションプラン【兄島】	小笠原諸島におけるグリーンアノール防除ロードマップ(仮称)
作成予定	7 月版を策定済み	H25 年 8 月頃(予定)	H25 年度中
内容	平成 25 年度中に緊急且つ迅速に実施すべき短期的な防除事業の実施方針を示す。 短期防除計画は、グリーンアノールの確認状況や防除事業の進捗及び効果等を踏まえて、必要に応じ随時見直しを行う。	短期防除計画を踏まえて、兄島でのグリーンアノールの早期根絶と固有昆虫類等の保全を図るため、侵入初期の3カ年間に実施すべき対策事業の洗い出しを行い、実施主体及び実施期間を明示する。	防除事業の実施により兄島でのグリーンアノール個体群の早期抑え込みの成功を前提として、小笠原諸島全体でのグリーンアノールの防除に向けた将来目標を設定し、長期的且つ段階的な取組の方向性を明示する。

## 3. 兄島グリーンアノール緊急対策WGの今後の進め方について

- ・ 本WGは兄島へのグリーンアノールの侵入確認に伴い固定の委員も定めず緊急的に設置したものであるが、今年度中に実施すべき事業の実施方針である「小笠原諸島兄島におけるグリーンアノール短期防除計画」を策定し、現地連絡会議も設置されたことから、本WGが対応すべき緊急的使命は概ね達成されたものと考えられる。
- ・ しかし、兄島でのグリーンアノール対策については、事業の実施に際しての課題や防除効果の不確実性を残しており、事業規模も大きくなることが予想され、さらに複数機関の連携と協同による事業推進が必要であることから、今後も科学的見地から継続的にサポートする体制は必要不可欠である。
- ・ したがって、今後は現地連絡会議の要請に応じてより機動的に対応できるよう、中核となる少数の専門家からなるワーキンググループ「グリーンアノール対策 WG(仮称)」を早急に設置し、科学委員会の下部WGとして改めて位置付ける方向で検討する。
- ・ また、現在、議論を進めている「小笠原諸島におけるグリーンアノール防除ロードマップ(仮称)」については、新たに設置するWGに議論の場を移行し、引き続き議論を進め、今年度中の策定を目指すことを要請する。

### 第3回兄島グリーンアノール緊急対策ワーキンググループ 結果概要

平成25年6月15日に開催された第3回兄島グリーンアノール緊急対策ワーキンググループにおける結果概要は以下のとおりである。

#### 議題1) 最新のアノール生息確認情報および対策の進捗状況

- ・ 兄島におけるグリーンアノールの分布状況および対策について以下の認識を共有した。
  - トラップは集中的に設置すれば、アノールの個体数を確実に減らすことができること。
  - 現状程度の爬虫類の混獲はやむをえないこと。
  - アニジマイナゴの混獲については注視が必要であること。
  - ネズミ類によるアノールの捕食について確認するために、ネズミ類のモニタリングについて検討すること。

#### 議題2) グリーンアノール防除の計画

- ・ グリーンアノール防除の計画に対する管理機関への助言又は要望事項は以下のとおり。
  - 短期的には高密度域の囲い込みと集中的捕獲による個体数の迅速な低減、中期的には兄島全域での根絶（検知されない低密度）とし、長期的には父島からの再侵入を防ぐための対策にも取り組むこと。
  - 捕獲技術のさらなる研究開発に努めるとともに、長期目標の達成に向けた明確なロードマップを速やかに提示すること。
  - 次年度以降も継続して兄島全域でのアノールの根絶に向けて、管理機関の連携による重点的、複合的な事業展開を可能にするため、兄島のアクションプラン改定に早急に取り組むこと。
  - 別途、昆虫類の域外保全（一時的避難）や緊急事態への対応についても検討すること。

#### 議題3) グリーンアノールの分布の評価と防衛ラインの考え方

- ・ グリーンアノールの分布と防衛ラインの考え方についての委員から管理機関への助言又は要望事項は以下のとおり。
  - グリーンアノールは、現在の確認地点よりも北側に広く薄く分布していると想定されるが、分布の最前線は現時点では不明である。
  - 低密度エリアでグリーンアノールが発見された場合には、発見箇所周辺に集中的に粘着トラップを設置して迅速な根絶を図ることを前提として、以下の手順で防衛ラインを設置すること。
  - 現在設置作業が進められている「捕獲柵」は、高密度域を囲い込むための第一次防衛ラインとして、関係機関が連携・協力して作業インフラの整備等の課題を早急に解決し、当初の計画どおり今年度のグリーンアノール拡散期までの設置完了を目指すこと。
  - 滝之浦～二本岩を第二次防衛ラインとして「南北遮断柵」を設置することは、①保全上重要な中北部エリアへの拡散防止、②新たな分布発見や再侵入リスクの低減、の観点から有効と判断されることから、時期を早めて今年度中の設置を検討すること。
  - 南北遮断柵の設置に伴うアカガシラカラスバトやノスリの繁殖等への影響については、可能な限り影響の回避に努める必要はあるが、回避できない場合は柵の設置を優先すること。
  - 兄島固有種の重要生息地へのアノールの侵入を防止するために重要生息地の周囲を囲う柵「囲い込み柵」と、兄島最北端の重要集水域へのアノールの侵入を防止するとともに弟島への侵入リスクを低減する第三次防衛ラインとしての柵「北部遮断柵」の設置についても、今後の調査結果を踏まえて検討すること。

以上